

# 第五ついで

第 121 号  
26.6.1

発行 編集委員会  
事務局 荏原第五地域センター  
TEL 3785-2000

編集委員

1	葉	1	明	2	中央	3	2	4	5
葉	神	葉	中	葉	豊	豊	豊	豊	豊

英	夫	子	代	子	男	子	子	子	良
千	寿	春	純	義	紀	紀	三	博	
櫻	井	藤	長	尾	川	小	北	額	本
葉	田	岩	名	林	村	額	本	塚	

## 東日本大震災被災地に行く 青少年対策地区委員会

2011年3月11日午後2時46分歴史に残る大震災から3年。さほど復興が進んでいないのが現状です。そこで当委員会は、38名が3月に現地を視察。現地の方から生の声を聞き、その恐ろしさや役立つ避難方法を子供達や後世の人に伝えてほしいと願っています。

### 小名浜漁港レストランにて

壁には「津波到達点」の印があり（約160cm）1階の鮮魚売場は全滅した。

### 塩屋崎

みやげ店の方が写真を見せながら、体験を説明してくれた。

まず、津波の威力についての説明があり、20cmの津波でも立っているのが不可能で、身体ごと流されてしまう。

地震20分後、200〜300m潮が引き、数秒で第1波の津波があり（まだ海水はきれい）、第2波はF1車並の速さ、波高9mの真っ黒い津波で町全体が襲われた。

薄磯地区は三方が山で、津波は1時間にわたり、ガレキを作りながら右往左往して、町中をあばれ回った。

その中で、せっかく山に登ったおばあさんとお孫さんが、第1波を見てたいした事



薄磯地区・津波で全てが流失、土台だけが残る

はないと思ったのか、山を降りてしまい、第2波の犠牲となり、後日ガレキの下から、手をつないだまま見つかり、涙を誘った。津波は第11波まで、時間にして7〜8時間にもわたり、300名の方が亡くなった。引き潮はとても強く、すべてを海に引き込み、堤防で引き潮を見ていた方々は全員亡くなった。全滅した町の中学校の生徒は、全員、山に逃げて助かった。

津波後、原発の風評被害で救助隊が来ず、残った50名の住民は、かまぼこ工場の在庫品で1週間、命をつないだ。

### アクアワールド大洗

近くの高台に避難して人の被害はなかった。停電で魚の命が危うかったが、直ぐに自家発電に切り替えられた。燃料にも限りがあるので、エサの量を限界まで減らし、少しでも水を長持ちさせた。車の半数

が急ぎ出ていったが、道路が渋滞してまったく動けず、車による移動が実際には不可能であることがわかった。

**教訓**

☆ 地震の後、数10分で津波が来る。その間に出来る限り、早く近くの高台に逃げる事。何があっても、引き返してはならない。

☆ 車での避難は必ず渋滞で動けなくなる。一刻も早く徒歩で高台へ。

### 防災体験教室に参加して

二葉2丁目 中島美恵

3月16日（日）「しながわ中央公園暫定広場」で行われた地区委員会主催・連合町会共催の「防災体験教室」に参加しました。

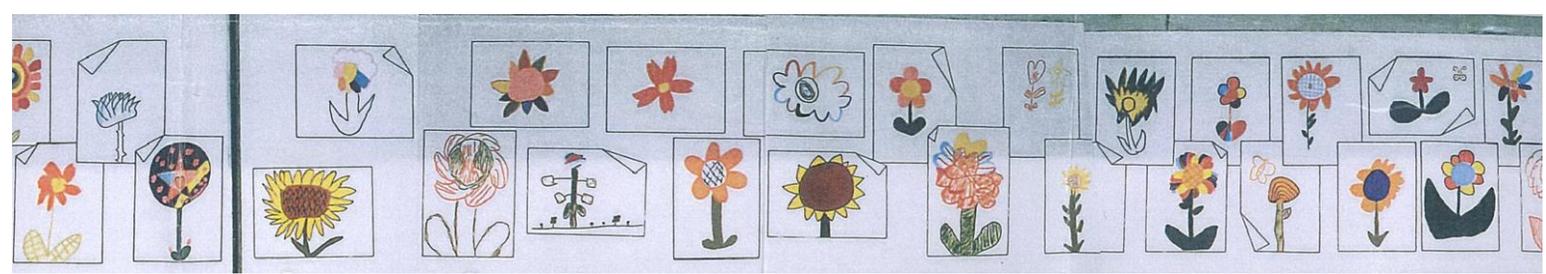
当日、会場には地域の子ども達を中心に大人も加わり、約400名が参加。防災クイズ、火起し体験、煙ハウス、シートベルト体験車などのコーナーがあり、防犯・防災のアプリールに品川区の防犯マスコット「しなぼう」や、消防庁の「キュータくん」も加わりとても賑やかでした。

最も人気のあったのは地上30メートルの高さまで上がる「はしご車」で、順番を待つ行列が、閉会まで続いたほど。

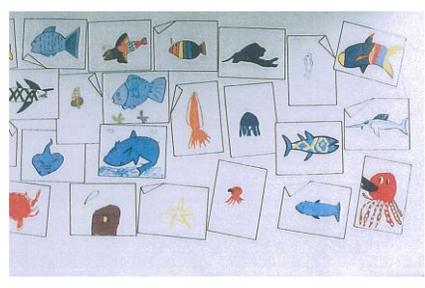
私は高所恐怖症なのでそれには乗らず、「多機能型地震体験車」で関東大震災を体験しましたが、その揺れの強さに改めて地震の恐ろしさを実感しました。

最後に、炊き出し訓練でおいしいカレーライスをいただき、終了となりましたが、全般を通し盛り上がりのある大成功の体験教室だったと思います。

### 新壁画誕生!



戸越小学校3年生作 (三井橋架 豊町3-5 完成平成26年3月)



担当された図工専科の山内先生にお聞きしました。

「明るい！」をモチーフに花と海の生物を70名で、各1枚ずつ描きました。今年度、始業式の翌日にみんなで見に行きました。子ども達は大喜びでした。関西方面に転校した児童がいて、見ることができるといいねと話しました。皆様に、喜んでいただければありがたいです。